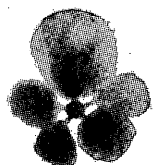


3月のことば



杖立への道

九州農業試験場長 城 下 強

有明海にそそぐ筑後川をさかのぼって、福岡県から大分県に入ると、まもなく日田盆地になる。

その中心地の日田市から山峡に入り、杉の美林をながめながら、支流大山川ぞいに熊本県境杖立の方向に進むと、途中に松原ダムがあり、つづいて下釜(しもうけ)ダムがみえてくる。

このダムの建設をめぐる、国と地元との間に波らんがあったことは、多くの人の記憶におお新しい。

主として、下流での水害防止をねらって建設を進めようとした国に対して、ダム建設には不適地であるとして、村の識者であった室原老人を先頭に、地元の人たちが反対したところである。

入口には土木工学の粋をつくしたるがごとき、ゾッとするほど高い堰堤があるが、そこからやや下の方に立って、対岸に目をやれば、崖のような急傾斜の山腹に、反対という字だけの白看板の残物や、柵の残骸までもみえる。これが当時の、いわゆる蜂巢城である。

反対する者はしだいに脱落して、最後には老人1人だけとなったが、なお地質的にここは適さないとさげびつづけ、ときには工事の現場においてきて“そんなやり方じゃダメだ”と、作業をしている人たちに、せわまでやいたという。

ついに老人は反対しつづけたまま亡くなった。そして、ダムには水がたたえられ、四圍の緑を映して美しく、いまは観光にくる人々さえある。

これで、ことはすんだと思われたのであるが、

最近になって、付近方々で地すべりがおき、水もれの問題が出てきたと報ぜられている。そして、やっぱり室原老人の云ったとおりだという声があがっている。

国はなんとか対策をこころずることになろうし、ダム安定への成功が願わしいが、自然の力に抗することは容易(よいい)ではない。もし個人や地元の団体などだけで、対策をほどこすとしたら大変なことであろう。

大地震にでもあったときには、自然の力の大きいことをしみじみと感じさせられるであろうが、常日頃われわれに及んでいる自然の力ということになると、切実感にとぼしいのが一般である。

自然は幾多の恩恵をも、われわれにもたらしている。

生物が発生したのも、それに適した当時の自然の力のものであり、自然との調和がたもたれて発展してきた人類であることも、疑がう余地(よち)のないところである。

とくに、生物的生産が本命である農業は、自然の力に直接依存するところがきわめて大きい。

日本には、それなりの自然条件があり、その力がはたらいっている。

つまり春夏秋冬をくりかえすなかで、時期的に変わる気温やその較差、降水量や湿度とそれらの時期的分布、それに地形、地質や土壌など、もろもろの要因がいろいろな形で総合されて、局地的変異をふくみつつ、大きな視野からみれば、列島

全域的な特徴をもっている。これに、従来の重点作目の特性を巧みに調和させて、日本の農業が営まれてきた。

適地適作と云われる場合に、近年は社会的、経済的環境の適否を先きに見るきらいがあるが、自然条件の適応が根本にあってこそ真の科学性があり、ひいては高い生産性をもたらしうることを忘れてはなるまい。

世界市場に大手をふって進出している農畜産物の大量生産国は、単に土地が広大なだけでなく、大局的にみた自然条件が、そのものの生産に有利となっているのが普通である。

連年の作物生育、栽培管理、収穫、乾そう、貯蔵あるいは家畜の疾病障害などの諸問題が、その自然条件の故に少なく、むしろ恵まれているところが多い。

そのうえに、経営または作業の規模上の利点があったり、あるいは別に地価・地代や賃金などに好都合な条件があったりしている。

日本ではいま、需要に応ずる生産をねらって、農業生産物の種類が増えたり、あるいは転換しつつある。

そしてその多くが、外国産と競合の方向にあるために、また国内他産業との均衡をうるために、生産性を高めんとして、規模の拡大や機械化・装置化や、組織づくりに懸命である。

そのことの必要はわかる。しかし土地さえあれば、要望さえあればで、そのことだけにとらわれて、導入作目と、その土地の自然条件との関係についての十分な吟味を怠っては、成功のむずかしいことを、下釜ダムが教えているのではあるまいか。

このことは、せっかく適地適作で伸びてきたミカン作でさえも、消費の壁にぶつかり、あるいは動物性食品が増えて、栄養過多から別な疾病を増すなどで、生産者が需要の見通しにさえ疑念を抱き、熱意を失いはじめているだけに、気になる春ではある。(終り)

< 目 次 >

- ※ 杖立への道 (2)
九州農業試験場長 城下 強
- ※ 水稻の新品種ツクシバレの特性と肥培管理 (4)
九州農業試験場 岡田 正 憲
- ※ 葉菜類の肥料の選択と施肥法について (6)
(株)渡辺探種場瀬峰研究農場長 相 沢 富 夫
- ※ 新有機資材“ヨーグロース”の特性と
『有機磷硝安加里』の肥効について (8)
[その2]
- ※ 48年度野菜関係予算 (10)
農林省